

講師のご紹介

★（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 主席研究員 杉浦 俊彦氏のご紹介

【ご担当研究室、職名及び主な研究内容】

- ・職名：農研機構果樹茶業研究部門研究推進部研究推進室主席研究員
- ・研究分野：[生育予測](#)、[温暖化](#)、[気候変動](#)、[農業気象](#)、[園芸](#)、[果樹](#)
- ・主な研究内容：果樹の適地移動など温暖化影響の評価や予測を研究。また果樹以外の農業全般の気候変動影響調査や、亜熱帯果樹生産などの気候変動適応技術を開発。開花予測や収穫期予測、休眠覚醒予測など果樹の生育予測技術の開発や、気象災害への対応等をなされ、国内で生産されているほとんどの樹種（ナシ、リンゴ、カンキツ、モモ、ウメ、オウトウ、ブドウ、カキ、パインアップル）の栽培を実施。



【杉浦 俊彦氏プロフィール】

- ・博士（農学）（京都大学）
- ・2026年12月 - 現在 農水省，農林水産分野における 地域気候変動適応推進委託事業に関する検討委員会委員、2022年8月 - 2026年3月：環境省，「気候変動影響評価等に関する調査・検討等業務」における気候変動の影響に関するWG委員

【研究論文】

- ・ [Model for predicting apple bloom date based on bud response experiments in controlled environments](#) Toshihiko Sugiura, Hiroyoshi Sugiura, Shohei Konno, Noriaki Fukuda Scientia Horticulturae 331 113144-113144 2024年5月
- ・ [Assessing the expansion of suitable locations for avocado cultivation due to climate change in Japan and its suitability as a substitute for satsuma mandarins](#) Toshihiko SUGIURA, Hiroyoshi SUGIURA, Shohei KONNO, Tomoki DATE, Takahiro YOSHIMATSU, Kenya KISAKI Journal of Agricultural Meteorology 80(4) 111-117 2024年
- ・ 施肥時期改善による露地栽培ニホンナシの発芽不良発生軽減技術の検証 園芸学研究 21(4) 433-440 2022年 査読有り最終著者

★愛媛県松山市 Avocado Lounge Arita（アボカドラウンジ有田）代表 有田 文宣氏のご紹介

【経営方針及び栽培概況】

（経営方針）

有機JAS取得し、夏の草取りやマダニの被害を回避しながら栽培。今後、25a アボカド園の8割を、スマート農業を活用した携帯操作ができる施設栽培に切り替える予定。露地栽培をポットの施設栽培にして、肥料も溶液散布が可能となる安定生産で1/10のコストダウンを狙う。

（栽培概況）

- ・ Avocado Lounge Arita（アボカドラウンジ有田）〒799-2468 愛媛県松山市小川甲 387 - 1
- ・ 設立：平成30年1月（アボカド栽培は平成26年から開始）
- ・ 栽培面積：30アール及び試験ハウス



- ・食べていただく方の健康と美味しさを一番に考え、下記による限りなく自然に近い環境で栽培しております。
(こだわりの栽培方法)
- ・農薬・除草剤を使用しない。・化学肥料は使用しない。(養分は、有機肥料と自らの落ち葉や刈草が微生物により分解されたもの)・土壌環境をさらに良くする為、年1回炭を散布する。・灌水は雨水のみ使用する。
(恵まれた環境)
- ・微生物が多くすむ肥沃な土壌。・南向きの傾斜地。・瀬戸内海の潮風をうけた程よいミネラル分。

【有田 文宣氏プロフィール】

農業資材会社にて営業を担当。その後、株式会社エフテックにて全国の農業生産者へ営業に回る中で、農業生産現場の生産工程の課題解決を支援。そんな中、自身も農業に興味をわき、アボカド栽培に着手。平成30年に無人直売所を自宅前に開設。令和元年10月に同社を退社後、本格的にアボカドの栽培・販売事業に着手している。

【園主からメッセージ】

私がまだサラリーマン時代、妻が庭に植えたアボカドの種が、冬の寒さに耐えて大きく育っているのを間近に見て、アボカドに興味を持つようになりました。その後、松山市からの苗木の育成・配布・栽培技術の支援もあり、



2014年から本格的にアボカド栽培を開始しました。30アールの山(耕作放棄地)を借り、開墾し、苗を植え育てました。そして、愛媛県松山市の300世帯ある団地入り口に無人産直所を設置し、販売を開始。それと同時に当園のアボカドを「和ボカド」として商標登録し、関東・関西へもギフト用商品として出荷を始めております。また、アボカドを通じて多くのお客様との交流を図りたいと、アボカドの園地内に瀬戸内海が展望できるテラスを作りました。まもなくアボカド狩りもお楽しみいただける予定です。当園のアボカドをたくさんのお客様にお楽しみいただけたら幸いです。

★(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 主任研究員 志藤 博克氏のご紹介

【ご担当研究室、職名及び主な研究内容】

- ・職名：農研機構 農業機械研究部門安全検査部 主任研究員
- ・研究分野：農業機械、農作業事故調査・分析、安全工学
- ・主な研究内容：農業機械の安全装置の開発、農作業事故の実態と対策の考え方、農業機械の安全性検査基準の策定

【農業機械安全性検査】

・農研機構は2025年4月から、乗用型トラクター、歩行用トラクター、田植機(乗用型)、自脱コンバイン、穀物乾燥機を対象として、農業機械安全性検査を新たな制度で再スタートさせている。スピードスプレーヤ、農用高所作業機、農用運搬車についても令和9年度以降のできるだけ早い時期に検査対象とすることとしており、現在、検査基準を策定中。ロボット機能や自動操舵機能を持つ乗用型トラクター、自脱コンバイン、田植機も検査対象としており、ロボット農機では、自動運転中に障害物を検知し、一定の距離に近づくと警笛を鳴らし、さらに近づくと自動で止まる機能や、通信が遮断さ



れた場合は自動で止まるといった機能を装備することが求められる。

【志藤 博克氏プロフィール】

・博士（農学）（東京農工大学）

・【研究講演】

農作業安全と普及指導員の役割、農作業事故の実態と対策の考え方、農業機械の適切な使用について等

・【研究論文】

農作業安全を考慮した圃場整備ワークショップの試み、田村孝浩・平直人・関谷翼・荻野真梨紗・松井正実・志藤博克・皆川啓子・山崎裕文・酒井憲司・鈴木信義、農業農村工学会誌

93(4),3-7 2025 年 4 月

ほ場整備事業における安全性確保のための道路幅及び隅切り辺長の検討、荻野真梨紗・松井正実・田村孝浩・志藤博克・皆川啓子、農業食料工学会誌 87(3),252-259 2025 年 8 月